

立夏となり

小林守城

三・一一から一年過ぎて

わたしの春は水仙から始まった

そよと吹けひかる匂いや黄水仙

水仙や白き蝶々の生まれ出づ

水仙や少女のごとき 小雨待つ

水仙の雨に打たれし 遊女かな

水仙とことばかけあう芝桜

人の見ぬ間に 喃語光りて

舞いてとべ蝶の如くに 靄の暮

舞いの生きざま 飛びしゆく末

立夏となり ことしもまた燕来て

三十年後のわたしが

きつと見ているような景色だ

アルファアの形 筑波嶺を斬る燕かな

座して候 藍色に男体は夏の陣